

第31期放射線安全取扱部会 部会長、副部会長ご挨拶

部会長就任にあたって

部会長 松田 尚樹



前部会長の上蓑先生はこの度協会側からの立場として部会をお支えいただくこととなり、私、松田が後を継がせていただくこととなりました。2年間の企画専門委員長時代には、委員の方々に恵まれたいへん有意義な活動ができましたが、今は上蓑先生から衣鉢を継ぐ心持ちで身の引き締まる思いです。第29期、第30期には、功労賞の立ち上げ、あり方検討会、大幅な法令改正への対応として教育訓練、定期講習、パブコメ取りまとめ、予防規程ガイド解説書の編集公開等、極めて的確かつタイムリーな施策が次々と打ち出されました。また、鎌倉、淡路、仙台、倉敷というどれも素敵な街で開催された年次大会は、放射線管理に係る情報入手・交換のみならず、主任者スキル向上、生涯学習、そして会員間の相互協力関係の構築に大いに役立ちました。

さて、今期は、お仕事としていくつか既に目の前に迫っています。RI法に基づく審査ガイドへのコミットメント、次なる改正としての測定品の品質保証への対応、そして前回の大きな法令改正対応のフォローアップです。粛々と進めるそのような活動と並行して、今後やるべき課題として、①知識、技術、経験の伝承－知識マネジメントの放射線管理への導入、②若手主任者の実務能力スキルアップ、③緊急時の対応能力の向上、の3つを考えています。各専門委員会の協力を得つつ、それぞれの放射線施設でお役に立てるものを生み出せればと思っています。また、放射線関連の学協会は多々ありますが、支部組織を有しているものは多くありません。ローカルエリアネットワークの充実、部会全体の底上げと、

新たなテーマや課題への扉につながるものと確信しています。その意味で、負担にならない範囲で、各支部を起点にした活動を多く支援させていただきたいと考えています。

これは副部会長就任時にも書いたことなのですが、どんな仕事にせよ、仕事仲間は良いものです。ベテランから若手まで、大きな職場から小さな職場まで、上司に恵まれた主任者、上司に恵まれない主任者、誰が上司なのか分からない主任者、自分が上司で部下からどう思われているか分からない主任者、日本全国津々浦々、みんな仕事仲間です。学術的持論を展開する学会とは違って、職能団体的なこの部会の特色を生かし、仕事仲間が気軽に立ち寄って好きなことの言える、そして新たな仕事仲間ができる、そんなバーチャル空間でありたいと思っています。私事ですが、学生時代に主任者免状を取得して（当時は合格＝免状）、すぐその年にアイソトープ協会に入会してはや39年、いよいよ最後のご奉公かと思います。張り切って務めますので、これから2年間、安全取扱部会をどうぞよろしくお願いいたします。

（長崎大学原爆後障害医療研究所）

副部会長就任にあたって

副部会長 馬田 敏幸



この度、副部会長に就任しました産業医科大学の馬田です。よろしくお願いいたします。

私が初めて主任者に選任された平成のはじめの頃は、生命科学系の研究所では³²Pを使用したDNAシーケンスの

黄金期で、RI実験室は利用者の順番待ちが生じた

ほどです。今思えばあれは夢だったのかな、と懐かしく思い出されます。一方、現在かというと、特に非密封 RI の利用が激減し施設利用者の減少が止まらない状況です。

小さな RI 施設では、スタッフ不足による主任者の何でも屋化や、若手不在のために管理技術の継承もままならない状況にあります。また、大規模な法令改正への対応や安全文化醸成への意識改善等、やるべきことが目白押しです。更に、大学等における非密封 RI 施設の拠点化構想は不安材料のひとつです。このように放射線安全管理を生業とする私たちの職場環境は、年々厳しさが増しているように感じられます。

放射線安全取扱部会の目的は、「主任者等の連携と情報交換、倫理意識と自主性を高め、知識及び技術の向上とその普及に関する活動を行うこと」とあります。更に公益法人の部会としてアイソトープ・放射線に関して、外に開かれた活動を行っていかねばなりません。また、将来のアイソトープ・放射線の利用のためには、若手の人材育成は喫緊の課題として欠くことはできません。同じ問題や悩みを抱える会員の皆さんが、「部会に入っていて良かった」と思っていただけのような活動を今後も企画してまいります。

部会長を支えながら、微力ではございますが尽力してまいります。部会の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(産業医科大学アイソトープ研究センター)

副部会長就任にあたって

副部会長 柴田 理尋



この度、新たに副部会長を拝命いたしました。今まで、中部支部委員の経験はありますが、年次大会や当部会での活動に参画する機会があまり無く、安全管理学会や大学等放射線施設協議会が主な場所でありました。学協会はそれ

ぞれ設立の趣旨が異なりますが、当部会は主任者を始め利用者の一番幅広い分野を網羅していますし、重複して活動されているかたも多いので、より多くの意見を集約できる場だと思っています。法令改正が一段落しましたが、現在、思わぬ事態に全国が見舞われています。このような緊急事態に対して、安全を保ちつつも業務を進める柔軟な発想が益々求められるようになります。また、昨年来の「短寿命核種の安全規制のためのガイドライン案」や「審査ガイドの整備」といった主任者にとって重要な動きが予想されます。主任者間の連携を密にして部会活動が更に活発になるよう、微力ながら貢献したいと考えております。皆様のご指導、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(名古屋大学アイソトープ総合センター)